

向田 邦子

生：1929年11月28日 没：1981年8月22日
作家・脚本家・エッセイスト

1980年『思い出トランプ』収録の「花の名前」「かわうそ」「犬小屋」で第83回直木賞受賞。翌1981年、台湾旅行中に飛行機事故で逝去。2021年には没後40年として、様々なメディアで特集が組まれた。母校である実践女子専門学校（現実践女子大学／渋谷区東）には、大学図書館の特殊文庫として向田邦子文庫が設置されている。



『向田邦子の陽射し』

太田 光／著 文藝春秋 2011

「読むと自信が持てて楽しくなる、太陽に似ている」向田作品についてそう述べる、爆笑問題・太田光の熱い思いが詰まった一冊。雑誌やテレビで語られた作品の章と、彼による「読むベスト10」「見るベスト10」が原文と併せて収録されている章で構成されている。妹の向田和子さんとの対談も収録されており、『父の詫び状』の裏話や妹から見た人物像など、家族の中でのエピソードが語られている。向田作品を知っている人は再読したくなり、教科書でしか知らない人にとっては良き入門書となる一冊。

「渋谷読書人」は

渋谷に関わる人全てに向け、
おすすめ本の情報を発信して
いく、渋谷区立図書館が発行
する定期刊行物です。

渋谷読書人 2022年8月・9月号

発行 / 編集 渋谷区立図書館

株式会社図書館流通センター

発行日 2022年8月

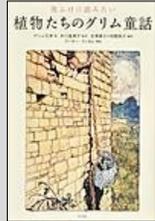
渋谷区立中央図書館

電話 3403-2591

住所 渋谷区神宮前1-4-1



「ようこそ 植物の世界へ」



『夜ふけに読みたい植物たちのグリム童話』
グリム兄弟／著 アーサー・ラッカム／挿絵
井口 富美子／監訳 吉澤 康子／編訳 和爾 桃子／編訳
平凡社 2021

イギリスの人気挿絵画家アーサー・ラッカムの絵が美しい「夜ふけに読みたいおとぎ話」シリーズ。本書は植物が登場するグリム童話を22話収録。普段は脇役の植物たちの静かな存在感を味わうことができる。



『愛なき世界』
三浦 しをん／著 中央公論新社 2018

洋食屋の見習い料理人が、配達先で出会った大学院生に恋をする。しかし彼女は三度の飯よりも好きな研究対象であるシロイヌナズナにその人生を捧げていた。植物を究める人々の山あり谷ありな日常が描かれた物語。



『禁断の植物園』
船山 信次／著 山と溪谷社 2022

植物のもつ作用や正しい付き合い方などが美しい挿絵付きで収録された一冊。「ケシ」「タバコ」「ドクニンジン」をはじめとした36種類の麻薬、有毒植物、薬用植物などについて、逸話を添えて紹介されている。



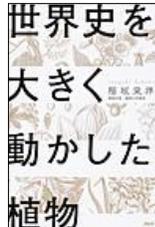
『プラントハンター』
西島 清順／著 徳間書店 2011

植物卸問屋の5代目である著者が、依頼主の要望に応えるべく世界各国をめぐり、そこで出会った植物とそのストーリーを紹介する。植物への愛、そしてどんな無理難題にも「絶対やってやる」という情熱にワクワクさせられる。



『植物図鑑』
有川 浩／著
角川書店 角川グループパブリッシング(発売) 2009

「お嬢さん、よかったですら俺を拾ってくれませんか？」突然始まる奇妙な同居生活。日常が知らぬ内に変わり、今まで見もしなかった道端の草花に目が留まる。四季折々の草花とともに綴られる穏やかな気持ちになる恋愛小説。



『世界史を大きく動かした植物』
稲垣 栄洋／著
PHPエディターズ・グループ PHP研究所(発売) 2018

植物の視点から読む世界史の本。植物は動物や人を利用して種を運ぶ。その陰で人の文明の誕生に関わり、産業革命の原動力にもなった。人の幸も不幸も左右してきた植物の壮大なドラマが綴られている。



『散歩が楽しくなる樹の手帳』
岩谷 美苗／著 東京書籍 2017

身近な樹木102種の雑学が文字通り、よりどりみどり。これを読めば、普段の散歩道で見かける樹木の見方が少し変わるかも？暑い日差しを遮ってくれる木々たちを見上げたくなる一冊。



『植物は<知性>をもっている』
ステファノ・マンクーゾ／著 アレッサンドラ・ヴィオラ／著
久保 耕司／訳 NHK出版 2015

脳がなければ知性はないのか？実は植物は何千万という根端のネットワークと無数の化学物質を用いて独自の知的活動を行っている。近年の人工知能研究にも関わる、知性とは何かを考えさせられる一冊。

気になる新着コーナー



『星三百六十五夜 秋・冬』
野尻 抱影／著 中央公論新社 2022

冥王星の命名者として知られる著者が、日々の星空の様子を自身の記憶や神話、詩文を交えて綴った一冊。抱影先生と共に美しい夜空を見上げてみてはいかがだろうか。



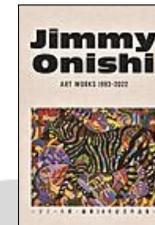
『イスタンブールで青に溺れる』
横道 誠／著 文藝春秋 2022

ドイツ文学者であり、発達障害当事者でもある著者による世界を股に掛けた旅の記録。25の街や地域での体験を綴ったこの一冊は、当事者研究の知見を利用した新しい紀行文となっている。



『水の歳時記365日』
俳句αあるふあ編集部／編 毎日新聞出版 2022

水にちなんだ俳句を一日一句ずつ紹介する歳時記。水が豊富な日本で生まれた多くの名句を、美しい写真とともに楽しめる。パラパラと眺めたり、お気に入りの句を見つけたり、俳句を通して日本の美しい四季を感じられる一冊。



『Jimmy Onishi ART WORKS 1993-2022』
ジミー大西／著
ヨシモトブックス ワニブックス(発売) 2022

ジミー大西が30年の画家活動で手がけた作品の数々をオールカラーで収録した作品集。世界各国からの影響や独特な色彩感覚、作風の変遷を通して、デビューから現在までの彼の魅力に迫る。